

## 【資料 3】 ESD 推進ネットワーク可視化タスクフォース

### 1. ESD 推進ネットワーク可視化タスクフォースの目的

ESD 活動推進ネットワーク活動可視化タスクフォース（以下「可視化 TF」と略す。）は、ESD 活動支援企画運営委員会（以下「企画運営委員会」と略す。）の下部組織として、ESD 推進ネットワークの成果や効果をネットワーク内外にわかりやすく発信するための可視化を行う。

### 2. 2021 年度委員

- (1) 佐藤真久 東京都市大学 環境学部教授（企画運営委員会委員・可視化 TF 委員長）
- (2) 広石拓司 株式会社エンパブリック 代表取締役
- (3) 久保田学 北海道地方 ESD 活動支援センター
- (4) 松原裕樹 中国地方 ESD 活動支援センター

### 3. 2021 年度のミッションとアウトプット

- (1) ESD 推進ネットワークの成果を見える化
  - ・ ESD の実践者だけでなく、一般社会に役に立ったことを見せる。  
（ESD 推進ネットワークの外部にいる人・組織へのアウトリーチが主な目的）。
  - ・ 事例集：「ESD 推進ネットワークの主な取組（仮称）」（A4、両面 8 頁程度）を作成・印刷（200 部程度）。
- (2) ESD 推進ネットワークの課題・次の方向性を見いだす
  - ・ ESD 推進ネットワーク関係者、識者へのヒアリングによって得られた ESD 推進ネットワークの課題・次の方向性を簡潔にまとめて、第 2 回企画運営委員会に報告。（2022 年 2 月を予定。）

### 4. 第 1 回会合

■日時：2021 年 6 月 10 日（木）10:00～12:00

■場所：オンライン

#### (1) 報告事項

2019 年度地域 ESD 拠点アンケート結果について報告をした。

- ・ 2021 年 3 月、ウェブフォームによるアンケートを実施。
- ・ 回答率が 7 割弱。2019 年度の実績を問うアンケートだったためと思われる。
- ・ 地域 ESD 拠点の周辺地域では、ESD/SDGs の認知度が高まっているとの回答が約半数。
- ・ ESD を持続可能な地域づくりの担い手として位置づけて活動している地域拠点が約 9 割。
- ・ 地域 ESD 拠点による、他団体の支援メニューの中では「情報発信」、「相談対応・視察受入」、「人材のマッチング」、「コーディネーション」が多い。
- ・ 詳しくは、ウェブサイトに掲載。

## (2) 議事

主な意見は次のとおり。

### ①事例集：「ESD 推進ネットワークの主な取組（仮称）」について

- ・関係者、受益者、子どもの変容など具体的なファクトを示し、意味づけを行う。
- ・ESD 推進ネットワーク外部の人が「ESD 推進ネットワークと連携したい」と思ってもらえるような内容とする。
- ・SDGs に力を入れている企業の取組を取り上げる。
- ・単年度では得られない、長期的な視野に立った成果を示す。
- ・マルチステークホルダーによる取組、組織横断的な取組を紹介する。
- ・全国フォーラムとの連動も考えるべき。

### ②「ESD 推進ネットワークの課題・次の方向性」について

- ・単年度で効果を測ることは無理だが、説得力のある数値指標を打ち出し、外部評価に耐え得る可視化手法を編み出していかなければならない。
- ・第2期国内実施計画を踏まえ、次の5年間で、何を目標に据えるか、何をするか、全国・地方センター、企画運営委員会、可視化 TF は意識して取り組む必要がある。
- ・ESD 支援センターは4つの目標を掲げているが、3～5年先を見据えたロジックモデルがない。限られた資源の制約の中で、到達目標の具体化と、ステップの構築が必要。
- ・ESD の位置づけを再定義すべき。国連 ESD の10年がスタートした時から、社会は大きく変化している。SDGs はほとんどの学校が扱っている。社会全体が SDGs に取り組まなければいけないという状況になってきている。
- ・地方創生と脱炭素との連動が重要な課題となっている。社会のニーズと子どもたちの関心についても再構築すべき。

### ③今後の予定

- ・第2回会合を、7月12日（月）9:00～12:00に開催。
- ・社会状況の変化に対応した目標・取組・成果の示し方について議論する。

## 5. 企画運営委員からの意見聴取（例えば、下のような視点からご意見をいただきたい）

- ・社会状況の変化を踏まえた ESD 推進ネットワークへの期待
- ・数年先を見据えた ESD 活動推進ネットワークの重要な目標
- ・今後、ESD 推進ネットワークにとって重要となる活動
- ・成果として示しうる指標
- ・ヒアリングすべき人の候補

## 【参考】 ESD 推進ネットワーク 目的と4つの機能

### ●目的

持続可能な社会の実現に向け、ESD に関わる多様な主体が、地域における取組を核としつつ、様々なレベルで分野横断的に協働・連携して ESD を推進する。

#### 【目標1 情報】

ESD 活動を支援するために有益な情報の収集、整理、蓄積、共有を進める。

#### ●2019 年度までの成果目標

ESD 活動支援センター（全国・地方）が収集、整理、蓄積する情報が ESD を深めるために（質的向上）、また、広めるために（量的拡大）、有用なものとなっている。

#### 【目標2 支援体制】

現場のニーズを反映した ESD 活動の支援体制を整備する。

#### ●2019 年度までの成果目標

ESD を推進する多様な主体が参画する官民協働プラットフォームとしての ESD 活動支援センター（全国・地方）の整備が進み、ESD 活動支援企画運営委員会による指導・助言の体制が整備され、地域 ESD 拠点の創出、形成、強化が進んでいる。

#### 【目標3 ネットワーク形成・学び合いの場】

ESD 実践の学び合いを可能とする重層的なネットワークを形成する。

#### ●2019 年度までの成果目標

ESD を推進する多様な主体が参画する官民協働プラットフォームとしての ESD 活動支援センター（全国・地方）の整備が進み、ESD 活動支援企画運営委員会による指導・助言の体制が整備され、地域 ESD 拠点の創出、形成、強化が進んでいる。

#### 【目標4 人材育成】

学校教育、社会教育それぞれにおいて、ESD を推進する人材の育成を進める。

#### ●2019 年度までの成果目標

既存の研修等を活用し、多様な場で ESD 研修が実施され、多様な分野・セクターに ESD を推進する他世代の人材が育成され、活動の場を広げている。